

ナナホシテントウ

テントウムシの種類は大きいものから小さいものまで数十種類はいる。普通にテントウムシというとナミテントウ(星の数はいろいろ)を指しナナホシテントウはその中の一部のように思われがちだが、れっきとしたテントウムシ科の1種族である。

詳しく見たことは無かったがテントウムシの幼虫の形は大体知っていて、4月23日にその幼虫をカラムシの葉の上で見つけた。ナナホシテントウ幼虫の模様に似ているがオレンジの帯が一本少ない。個体差もあるのか？カラムシは家の横にある雑草の中なので羽化までを調べることにした。

幼虫は一枚の葉の上で這い回っていたがそのうちに動きが止まっていよいよサナギになるらしい。翌日、4月26日の朝、その幼虫がいつの間にかサナギになっていた。周りを見るとカラムシの葉に限って同様のサナギが他にも5体付いている。イタダリの葉も混在しているのだがサナギが付いているのはカラムシだけである。そしてサナギによって色の感じ(黒点の配列)が違っている。個体差なのだろうか？サナギになってからも変化をするのだろうか？



5月8日朝7時、いつものようにサナギの状態を観察に来たところ何か様子を変だ。よく見ると下側(こちらが頭だった)から真黄色で斑点がなにもないテントウムシが産まれたしている。

暫くながめていたが一向に斑点が現れない。はたしてナナホシテントウなのだろうか？長期戦に構えることにした。以下変化が現れた時の写真を示すが、最後の写真を区切りに葉の下に隠れてしまった。そして、夕方に現れた時には立派なナナホシテントウとなっていたのである。

